

市政クラブ行政視察研修報告書

この度、平成25年度市政クラブ会派行政視察研修を終了したので、その内容を下記の通りに報告致します。

平成25年8月/ 日

名取市議会

議長 山田龍太郎 様

市政クラブ 代表 相澤祐司



記

- 1 期 日 平成25年7月16日(火)～18日(木)
- 2 参加人員 相澤祐司
相澤 雅
- 3 視察地及び調査事項
 - ・ 7月16日(火) 岡山県玉野市
 - (1) 地域公共交通計画について
 - ・ 7月17日(水) 岡山県総社市
 - (1) デマンド交通「舟雪くん」について
 - (2) そうじゃ 地産地消「地食べ」について
 - ・ 7月18日(木) 兵庫県たつの市
 - 1 まちづくり改革プラン
 - (1) 自立のまちづくり



行政視察報告書

平成25年7月25日

視察場所 ・ 岡山県玉野市

視察月日 ・ 平成25年7月16日

1. 玉野市の概要

面積・103,63km²

人口・64,588人 ・ 世帯数・26,867世帯

交通・JR宇野線・国道30・430号

主要事業所・三井造船〔株〕玉野事業所、パンパシフィックカップー（株）日比精錬所、北興化学工業（株）岡山工場、ナイカイ塩業（株）、（株）トンボ玉野本社工場。

特産品・船舶、銅、化学薬品、食塩、千両なす、二十世紀梨、学生服、渚百選、番田いも、海苔、藤の実リキュール。

観光・渋川海水浴場、おもちゃ王国、王子が岳、金甲山、常山、出崎海水浴場、深山公園、深山イギリス庭園、宇野港、たまのミュージアム、ののちゃんち。

視察調査事項

1、中心市街地活性化基本計画について

造船業の合理化や宇高連絡船の廃止による街なかの賑わい喪失、近隣都市の大規模小売店舗の立地による商業者への影響、JR宇野駅東に広がる遊休地へのスペイン村構想の頓挫などにより衰退、活性化のため基本計画の策定に着手。

平成20年まちづくり研究会（任意）の発足、翌年4月中心市街地活性化協議会設立（法定）、7月には「中心市街地活性化対策室」を産業振興部商工観光課内に設置、22年4月対策室を政策部総合政策課へ移管し素案策定に着手、10月素案完成、24年2月、申請手続きに至る。

平成24年3月29日、内閣総理大臣により玉野市の中心市街地活性化基本計画が認定された。

a、官民を挙げた中心市街地再生プラン

b、H24～H28年の5ヶ年で73事業を展開

c、計画の認定により、国庫補助などの優遇処置

瀬戸内温泉たまの湯、1億5千万円（経済産業省）

クリエイター交流拠点「uz」300万円（経済産業省）

歩道の整備など補助率40%～45%（国土交通省）

その他、既存ストックなどがあり73事業となった。

目標として

まちの魅力が連携し、人が集い行き交うまちづくり。

生活と福祉が充実し、ふれあいがある住みよいまちづくり。

今後の課題

- a、各事業の確実な実施。
 - b、検討中の事業及び新規事業の具体化。
 - c、多様な組織の連携（商店街・自治会・地元住民など）
 - d、次世代の人材育成。
- などを挙げている

2、地域公共交通計画について

(1) 計画策定の経緯について

玉野市では、交通体系の見直しで、現状の公共交通は、地域内移動、拠点間移動、広域移動、の役割が明確でなく、移動のニーズに沿った利便性の高いサービスが提供されていないと結論、その解消に向けた対応を検討する。

高齢者から、バス停までが遠い、利用したい時間帯にダイヤがない、便数が少なく利用できない等の問題解決には、デマンド型乗り合いタクシーの導入しかないと結論。

路線バスは主要拠点間を結ぶ路線にし周辺部の運行はデマンド乗り合いタクシーで対応する事に決定し平成25年度より本格運行開始する。

視察の経過

玉野市役所の会議室において、玉野市の議会事務局長・小川栄一氏より、歓迎の挨拶と、玉野市の概要の話をいただき、続いて会派の代表である相沢祐司議員より訪問の経緯と御礼の挨拶をし訪問の趣旨である玉野市の中心市街地活性化基本計画と玉野の新しい公共交通体系について、別添資料にもとずき、中心市街地活性化協議会のタウンマネージャーの岡本章弘氏より説明をうける。

その後、政策部総合政策課、課長、藤原秀紀氏より新しい公共交通体系についての取り組みの説明を受けました。

別途資料添付

- 1・玉野市中心市街地活性化基本計画について。
- 2・玉野の新しい公共交通体系について。

考 察

1、玉野市中心市街地活性化基本計画について。

昭和51年には人口8万人を越す街であつたが、平成25年には6万4千人と減少するなど街の衰退が著しく、活性化のためどうあるべきか問われた。

平成20年から、まちづくり研究会が発足、24年には国に認可の申請をし、認定を受けるなど対応にす早さがあると感じました。

当市の対応と比べると雲泥の差があると感じた。計画については5ヶ年で73事業を展開する事になっており、急ごしらいの計画で実現は困難であると思われるが、がむしやらにでも、実現させる心意気を感じた。

当市でも中心市街地活成果の計画があつた事や、申請を取り止めた事なども知っており、当市の事を、じゃくに質疑される場面もあつた。

当市の計画でいくと実施期間の5年間に問題がある等の説明をすると、玉野市でもそこに問題があるとの話でした。

2、玉野の新しい公共交通体系について。

当市、議会でもデマンド型乗合タクシーが取り上げられた経緯があるが実現には至っていない、玉野市でも同様であつたが、高齢者にバス券や、タクシー券を配布、利用の少ないバスを走らせている事は政策として得策で無いと判断、デマンドに取り組む。

予算にしても現状の支援の範囲内で(6千万円)あり、どう取り組むかは、市長の政治姿勢と決断にかかっていると判断。

玄関から玄関までとはいかず、デマンド乗り場を小さな単位でつくり、そこに集めて送迎するシステムで、完全なるシステムとは言えないがより利便性があると判断、実施にこぎつける。

帰りに、委託しているタクシー会社に訪問し、配車の実態なども見せて頂きました。

玉野市の事務局長、小川さんと当市農政課の高橋さんが研修センターで一緒だったとの事で、話がはずみ、帰りには倉敷の宿まで送って頂きました、大変感謝申し上げます。

行政視察報告書

平成25年7月25日

視察場所 ・ 岡山県総社市

視察月日 ・ 平成25年7月17日

1. 総社市の概要

面積・78,44km²

人口・66,201人 ・ 世帯数・24,345世帯

交通・JR吉備線・伯備線/伊原鉄道伊原線・岡山自動車道・国道180・429・486号・国道180号総社バイパス。

主要事業所・〔株〕アステア・山崎製パン（株）岡山工場・（株）紀文食品岡山総社工場・（株）岡山イワミ食品・ユニチカテキスタイル（株）常盤工場・カルピス（株）岡山工場。

特産品・玉どうふ・桃・ぶどう・いちご・セロリ・千両ナス・赤米製品・きびみどり製品・清音雄町

観光・備中国分寺・こうもり塚古墳・作山古墳・総社宮・鬼ノ城・宝福寺・名勝豪溪・雪舟生誕地・軽部神。

視察調査事項

1、デマンド交通「雪舟くん」について

a、事業策定の経緯について。

平成17年に総社市・山手村・清音村の1市2村が合併し現在にいたる、路線バスについては現行のまま新市に引き継ぎ路線の維持確保に勤める。

同年、総社市路線バス等対策協議会の設置、バス路線等のあり方の大綱を市長に答申する。

平成18年度、路線バスの利用促進を促す啓発活動等の実施。

平成19年度、市内の循環バスのルート変更、停留所の移設、高齢者バス・タクシー料金助成事業の実施。

平成21年度、コミュニティバス「こまわりくん」の導入、高齢化率の特に高い2地区4路線で運行する。

平成22年度、3月新交通システム調査特別委員会を議会が設置する。

： 6月、市長が議会でデマンド交通「来年4月導入」を表明。

平成23年度、「デマンド交通システム、雪舟くん」試行運行実施氏。

： 4月本格運行開始。

b、成果と今後の課題について。

公共交通空白地帯の解消と、市内全域を面でカバーできる交通システムの実現はデマンドに代えられる方法は無い、高齢者の移動手段の確保、行政経費「現行の予算内」と

住民満足度から見れば、デマンドが有効な政策と言える、完全予約制（1時間前）で、今すぐの対応出来ないや、土・日・祝日は運休などの問題もある。

2、そうじゃ、地産地消す「地食べ」について。

平成21年5月、「総社新農業会議」設立。

平成22年10月、総社新農業会議の提言集を総社市長に答申、地産地消推進を最優先課題と位置づける。

平成23年2月、総社市地産地消推進条例（案）を2月市議会に付議、可決され同年4月1日に施行される、その基本理念として、関わる人たちそれぞれの役割・とりわけ学校給食における地産地消を推進と地産地消から始まる地域農業の再生と発展。

平成23年3月、「そうじゃ（地・食べ）委員会」設立。

生産者、農協、農業公社、学校給食、行政により編成された総社市地産地消の実働部隊として設立される。

学校給食における地産地消推進（1日6400食）、平成22年の地産地消率は、約17%であった、それが平成24年度実績で33、3%になり、平成25年度目標値を35%にしている。

他に販路として、平成24年度の販売実績として、20,126,674円の売り上げがあり、農業者の所得向上・新鮮な地元産野菜の流通拡大・遊休農地や耕作放棄地の、解消・栽培技術の普及・地域コミュニティの強化等の効果があつた。

視察の経過

総社市役所の会議室において、総社市の議会議務局長・友野茂氏より、歓迎の挨拶と、総社市の概要の話をいただき、続いて会派の代表である相沢祐司議員より訪問の経緯と御礼の挨拶をし訪問の趣旨である総社市の、デマンド交通「雪舟くん」について、別添資料のもと、市民環境部、課長、林圭一氏より資料に基づき説明をうける。

その後、産業部農林課主幹農林係長、横溝淳子氏より、総社、地産地消「地食べ」についての取り組みの説明を資料により受けました。

別途資料添付

- 1・総社市新生活交通「雪舟くん」。
- 2・地産地消の推進について。

考 察

1、デマンド交通「雪舟くん」について。

平成17年の1市2村の合併で市域が212Km²の面積を抱えた市が市民の足のニーズに答えようとするればデマンド交通が最良の判断と思われるし、しかも市長の決断の素早さに賞賛の思いであつた。

しかも配車のための配車センターは直営で市役所にあり、対応が行き届いていると感

じました。

しかも、市長の一声で完全デマンドでの実施であり、ドア～ドアが基本の運行である。

2、そうじゃ地産地消「地・食べ」について。

決意するところまで出来るのか、市長が違うのか、職員の意識が違うのか？当市においても地産地消は何度も議会で取り上げられておりますが、お茶を濁すような答弁が繰り返されて来ました。

決断と実行と言われますが、当市は、出来ない理由を模索して、だから出来ないと言っているような気がしてなりません。

総社市の市長、片岡聡一氏が、被災地より、よく来てくれましたと挨拶を受け、更に名取氏の震災孤児に支援してくれている事を知り感謝で胸が熱くなりました、今後も募金を続け、支援したいとの事です。

決断と実行の市政を見たおもいです、心より感謝申し上げます。

行政視察報告書

平成25年7月25日

視察場所 ・ 兵庫県たつの市

視察月日 ・ 平成25年7月18日

1. たつの市の概要

面積・210,93km²

人口・81,120人 ・ 世帯数・41,919世帯

交通・JR姫新線(本竜野駅他5)・山陽本線(竜野駅)・播磨自動車道(播磨新宮IC)・
国道2・29・179・250号・室津港。

主要事業所・ヒガシマル醤油〔株〕・日本丸天醤油・ブンセン(株)・日本ジャイアント
タイヤ(株)・極東産機(株)・ナガセケムテックス(株)・パナソニック
デバイスSUNX竜野(株)・(株)帝国電機製作所。

特産品・手延素麺・乾麺・醤油・梅ジャム・紫黒米・トマト・ランドセル・佃煮・くぎ
煮・皮革・神力(清酒)・綾部の華(梅ワイン)等。

観光・聚遠亭・龍野城・東山公園・永富家住宅・綾部山梅林・賀茂神社・御津自然観
察公園(世界の梅公園)・新宮宮内遺跡・室津の古い町並み。

視察調査事項

1、まちづくり改革プランについて

a、事業策定の経緯について。

平成17年に龍野市・新宮市・揖保川町・御津町の2市2村が合併し現在にいたる、
平成18年に28年度を目標とした行政改革大綱を策定、その中に、まちづくり改革プ
ランも盛り込む。

実施計画として。

5つの重点目標を掲げる、1、経常収支比率87%台 2、全会計起債残高870億円ま
で縮減 3、実質公債比率15%台を堅持 4、全基金保有額を100億円台に維持 5、
一般市税・減年度分収納率98,5%。

同時に、まちづくり改革プラン・実施計画の策定を行う(H25~H28)。

まちづくりの改革・5つの方策。

1、市民・地域の自立 2、自然環境保護への対応 3、危機管理体制の充実 4、自
自体経営の基盤強化 5、市役所の機能強化と意識改革。

まちづくり改革プラン実施計画のなかに、この5つの方策が項目毎にのべられてお
り、自立のまちづくり推進施策の展開やゴミ減量化、コミュニティバス事業の見直し、
収納率の向上、時代に即した市民サービスの検証など67事業にわたり取り上げている。

b、成果と今後の課題。

これ等の実現のため、たつの市自立のまちづくり支援要綱を定め市民力の活用と推進

推を図り、市民が出来る事は、補助金要綱により支援、実現出来るようにしている。

視察の経過

たつの市役所会議室において、たつの市、議会事務局長・米沢幸和氏より、歓迎の挨拶と、たつの市の概要の話をいただき、続いて会派の代表である相沢祐司議員より訪問の経緯と御礼の挨拶をし、訪問の趣旨である、まちづくり改革プランについて、別添資料にもとずき、たつの市行政改革推進室次長、富井静也氏より資料に基ずき説明をうける。

別途資料添付

- 1・行政視察資料。
- 2・まちづくり改革プラン。

考 察

まちづくり改革プランについての視察であるので、まちをどのように改革するのかと大いに興味を持って伺いました。

行政改革のなかでの、まちづくり改革プランであり、その基本は、自立のまちづくりであり、市民の意識改革であります、これからは市民主体で、市民が協力出来る事は積極的に活用していくべきと思った。

当市においても、行政も市民も意識の改革が必要であり、まず、そのあり方から学ばされたと感じました。

帰りに、市民ボランティアの山元富士子さんに、小京都と言われる、たつの市の古い町並みを昼食の場所まで送っていただきながら案内して頂きました、たつの市の議会事務局の配慮に心より感謝申し上げます。